

お子さんの少し先の未来を考えてみよう②

ヨウホショウ レンケイッテ ナンナノ！？

～お子さんの育ちの土台づくりに欠かせないものです～

学校法人宮沢学園 富田幼稚園長 相樂 正人

保護者の皆さま、毎日の子育てご苦労様です。子育ての先輩として心からエールをおくります。さて、ヨウホショウレンケイ⇒⇒“幼保小連携”という言葉に今はピンとこないかもしれませんが、お子さんが幼児教育から初等教育に移る時に必ず通るプロセスです。実際、各教育委員会を単位として5歳児から小学校1年生までの「架け橋期のカリキュラム」作成が進められています。

はじめに朝自習です。

○ 幼保小連携とは

幼稚園、認定こども園、保育園、小学校が、子どもたちの生活や学びの基盤を保障するため、幼児期の教育と児童期の教育を円滑に接続し、組織的に支えることをいいます。

○ どうして幼保小連携が必要なのかというと

小1プロブレム問題を解消し、子どもたちを小学校生活に適応させるためには、幼児期の教育を担う施設と小学校が連携して環境を整備することが大切であるからです。



しかし、

ある調査によれば、小学校就学に向けてあいさつや落ち着いて話を聞くなどの基本的な生活習慣について、幼稚園・認定こども園の教職員と小学校の教職員を対象にその定着度についてアンケートしたところ、幼稚園・認定こども園の60%が「十分に身に付けて卒業させている」のに対し、小学校では5%という結果が出ています。小学校には複数の幼稚園・認定こども園・保育園等から入学するという背景はありますが、基本的な生活習慣の定着度について大きな認識の差が見られます。

「5歳児の保護者における小学校との連携への意識に関する調査」によると幼保小連携はスムーズな小学校接続のために欠かせないという意見の他

* 幼稚園と小学校は学区や通う地域が異なることも多いと思うので連携が必要とは思えない。

* 幼稚園や保育園に一番近い小学校との連携になると思うが、園児がみんなそこに就学するわけではないので、そこまで深くする必要はないと思う。

という自由記述による回答も見られます。

そこで、クイズです。

Q : 次の項目の中で「幼保小連携」に関係ないものを選んで□に☑を入れてください。

- : この前、幼稚園児の子どもを連れて、家族で小学校の校庭を散歩してきました。遊具で遊んでいたら、花壇の草むしりをしていた校長先生が優しく声をかけてくれました。
- : 幼稚園では、小学校の昼休みの時間に校庭・体育館を借りて、運動会練習を行っています。運動会当日は、小学校の保健室を開放していただき、校長先生や体育主任の先生が待機し、対応してくれました。
- : 子どもの小学校就学を控えて、小学校の普通学級と特別支援学級を見学したいと思い、幼稚園の園長先生に相談してみたところ、すぐに小学校の校長先生と連絡をとっていただき、見学が実現しました。
- : 卒園式を控えた年長の子どもたちに小学校の栄養技師と副校長先生が来園し、4月から始まる給食の準備や給食当番の仕事について教えてくれました。
- : 近年、小学校の授業が様変わりしたのをニュースで知りました。そこで、近くの小学校を訪問し、幼稚園の先生方にタブレットを活用した1年生の生活科や国語の授業参観をさせていただきました。

現在の幼児教育は、幼稚園・認定こども園単体では解決できないことが多くあります。文部科学省が明示した「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、5歳児から小学校1年生の2年間にふさわしい学びの実現を図ることを目指しています。

まさに日本の発明家・実業家、トヨタグループの創始者である 豊田 佐吉翁の名言『窓を開けてみよ 外は広いぞ』が当てはまると思います。

幼保小連携は、まず、幼稚園・認定こども園の園長先生、小学校の校長先生の動き出しと保護者の方々の理解がないと先には進みません。また、年間を通して連携することが大切です。できるところから「このゆび とまれ」で！

まとめです！

※前述のクイズの解答は、**すべて幼保小連携に必要なもの**です。

